

第 101 回 防災カフェを開催しました。



古地図で昔の堤をさぐる

～琵琶湖博物館の企画展示から考える防災～

日 時：2025 年 8 月 2 日（土）午前 10 時 30 分～12 時

ゲ ス ト：滋賀県立琵琶湖博物館 学芸員 島本 多敬 さん

ファシリテーター：防災危機管理局防災対策室 山本 雅貴 さん

今年の琵琶湖博物館は、江戸・明治期の古地図から、地域の人々が堤防や土砂をとめる施設をつくって水害・土砂災害に対応してきた歴史をさぐる企画展示を開催されています。企画展示を制作された学芸員からその見どころをお話いただき、歴史から防災と地域の成り立ちの関係について考えました。



Ⅵ章 エピローグ：川をつくってきた地域の歴史を伝えるために
この企画展示で伝えたいこと：資料を記録し残すことの重要性
◆「史資料を残す」【古地図、古文書などの記録】
◆「景観とその記録を残す」【歴史が積み重なってきた現在の地景の状況】
◆「過去を知る人の話を残す」【無形の記憶】
◆「私たちが暮らす土地は、自然地理的条件のもとで災害を防ぎ、川や土地を管理して恵みを得てきた、地域の人々の営みの歴史でできている。」 ；「堤」は、土地の開発と災害対応の歴史（＝地域の成り立ち）の証拠。
＊証拠にもとづいた歴史が防災に活かせる。防災に過去を活かすことで、過去に関する証拠の意義や価値が知られていく。この価値を大切にしたい。

島本さん、山本さん、参加者のみなさん ありがとうございました。

第 101 回『防災カフェ』の概要は、後日お知らせします。